

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月6日
函館市立深堀中学校

1 本年度の重点教育目標

豊かな心を持ち、自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成

2 本年度の取組の重点

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ①確かな学力の向上を図る学習指導 | ② 道徳教育を要とした特別の教科 道徳科 |
| ③自己の生き方を考えていくための総合的な学習の時間 | ④ 自主的・実践的態度を育てる特別活動 |
| ⑤自己管理能力を高め、健康と体力の向上を目指す健康・安全教育 | |
| ⑥自立し、たくましく生きる力を培う特別支援教育 | ⑦ふれあい活動を基盤にした ぶれない生徒指導 |

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達 成 状 況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）	
①確かな学力の向上を図る学習指導	学習規律の徹底を図ることができたか。	a	教職員間で共通理解、共通実践し、指導の徹底を継続する。	A	A	
	必要な資質・能力を育む授業改善を図ることができたか。	b	校内外での研修を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向け求められている力を高められるよう授業実践を行っていく。	A	A	授業を見学する中では生徒が集中し、学ぶ様子が見られた。
②道徳教育を要とした特別の教科道徳科	校内体制の確立と「道徳科」授業の充実を図ることができたか。	a	道徳教育推進教師を中心として研修の充実を図ったり、担当教師のローテーションをしたり、校内体制を確立する。	A	A	教室の雰囲気や教員の姿勢もとても印象がよかった。
	いじめ防止基本方針に基づいた取組の充実を図ることができたか。	a	生徒会が主体となって、いじめ撲滅に向けた取組（IBC：いじめ撲滅キャンペーン）を今後も行っていく。	A	A	IBCの取組素晴らしいです。
③自己の生き方を考えていくための総合的な学習の時間	勤労観・職業観を育てるキャリア教育の一環としての進路指導の充実を図ることができたか。	a	地域産業訪問や体験学習を通して、社会に貢献する意欲や意識を育んでいく。	A	A	貴重な時間・体験を大切にしてください。
	地域の力（人材・教育資源）を活用することができたか。	a	FK-NET（深駒ネット）を活用しながら、地域の教育資源の掘り起こしを継続する。	A	A	共通認識ができたと思う。
④自主的・実践的態度を育てる特別活動	集会活動や学校行事の工夫で自主的・実践的態度を育成することができたか。	a	自己肯定感や自己有用感を持たせる集会活動を企画・工夫して行っていく。	A	A	運動会や文化祭の充実に感動します。
	生徒主体の奉仕活動の充実を図ることができたか。	a	ボランティア活動は増え、生徒の意識の高まりを感じる。	A	A	地域として感謝でいっぱいです。より多くの参加を希望しております。
⑤自己管理能力を高め、健康と体力の向上を目指す健康・安全教育	性教育の計画的・系統的な指導体制の確立を図ることができたか。	a	保健体育科を中心としながら、計画的に指導を行っていく。	A	A	思春期の健康教育は一生の財産につながります。今後も継続願います。
	健康な生活習慣の形成と安全意識の高揚を図ることができたか。	a	様々な場面で意識付けをすることで、生活リズム改善や安全への意識を家庭と連携し高めていく。	A	A	
⑥自立し、たくましく生きる力を培う特別支援教育	生徒の特性に応じた適切な支援の充実を図ることができたか。	b	個別最適な指導を意識するほど、その生徒にとっての困り感など、今まで以上に見取ることができてきた。	A	A	対外的な発表の場がもっと増えるとよい。
	校内支援体制の確立を図ることができたか。	b	支援が必要な生徒が増えていることから、深堀サポートルームや函館サポートベース、SSWを積極的に活用する。	A	A	丁寧な支援教育を受けられる姿は他の生徒にも安心感が伝わります。
⑦ふれあい活動を基盤にしたぶれない生徒指導	全教師が、共通理解・協働体制に基づいて適切に指導・援助することができたか。	a	日常の様々な場面で、自己肯定感や自己有用感を持たせる関わりを意図的に行っていく。	A	A	学校全体の取組熱意を感じています。
	生徒理解のための努力がなされ、日常生活の中で相談活動を積極的に行われることができたか。	a	いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期解決に努める。	A	A	

自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。